

水の 話

FUJI CLEAN NEWS

2020
Hello New Year!!

NO. 186

【特集】

日本三景『松島』の絶景と湾の恵み。

大震災からの再生に取り組む松島湾

【フジクリーンレポート】

豪州の集落で100基以上のフジクリーン浄化槽が採用!



日本三景『松島』の 絶景と湾の恵み。

大震災からの再生に取り組む松島湾

日本を代表する景勝地として知られる宮城県・松島。

四季折々の風情を楽しめる景観、極楽浄土を願った霊場、多くの海産物が獲れる豊かな海。

多彩な顔を持つ松島は、だからこそ奥深く、世界中の人々を魅了してきました。

そして、2011年に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。

さまざまな物語を紡ぎ、今もなお人々を惹きつけ続ける松島の魅力を見つめます。

DATA

宮城県松島町(人口14,025人*) ※2019年5月31日現在
宮城県の海岸部中央に位置し、町域の50%は松島丘陵を中心とする森林からなっており、町内を南北に流れる高城川が松島湾に注ぎます。松島は日本三景に数えられ、四季を通じてそれぞれ異なった景観を呈する自然美と、数多くの歴史的・学術的にも価値の高い文化遺産が残され、国の特別名勝に指定されている、全国有数の観光地です。

悠久の風が流れ、世界を魅了する松島湾。

世界にも認められた山と海のファンタジー

青く雄大な海に浮かぶ翠の島々。宮城県の松島町、東松島市、塩竈市などにまたがる松島湾とその内外にある260余りの島々から成る宮城県の松島は、京都府の天橋立、広島県の宮島と並ぶ日本三景の一つとして広く知られています。高台から眺める山と海が織り成す美しい景観は、四季折々の表情を楽しむことができ、この地を訪れる多くの人々を魅了しています。古くは平安時代より数々の歌にも詠まれており、中でも松尾芭蕉の『奥の細道』によって全国で紹介されてからは、文人墨客を中心に多くの人々が足を運び、遊覧の地として栄えていきました。

そんな松島の美しさは時代を経ても変わることなく、1952(昭和27)年に国の特別名勝に指定されたのをはじめ、近年では2009(平成21)年に外国人観光客向け旅行ガイドブック『ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン』で三つ星を獲得、2013(平成25)年には日本で初めて「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が認められるなど、世界的にも注目を集めています。周辺には、松島をこよなく愛したと言われる伊達政宗ゆかりの瑞巖寺や五大堂、円通院などの歴史的建造物が建ち並び、現在も年間300万人の観光客が訪れています。

長い年月によって磨かれた美しい多島海

松島が現在のような多島海になったのは、2万年から3万年前の氷河期以降。かつては陸地だったところが、地殻変動による沈下や気候の温暖化に伴う海水面の上昇によって島となり、約5,000年前に現在の松島がつくられたと考えられています。松島湾の湾口には宮戸島や寒風沢島などの島々が並んでいるため、湾内は波が静かで土砂が堆積しやすく、数千年という時間をかけて海が浅くなるとともに海底が平坦化していきました。現在、湾内の平均水深は約3メートルで、この浅さもまた、湾内の波を穏やかにする役目を果たしています。海に浮かぶ島々や海岸には、海水による浸食や風雨の影響によって、独特の崖や洞窟などが見られるのも魅力の一つです。湾域には、人の手によってつくられた「ボラ」と呼ばれる洞窟も無数に残っていて、自然とともに神秘的な造形美を醸し出しています。

世界で最も美しい湾クラブとは

1997(平成9)年に湾を活用した観光振興・地球環境保護や観光資源の保全を目的に設立され、世界遺産のモンサンミッシェル湾やハロン湾など世界の名だたる湾が加盟しています。松島は、美しい景観や海の豊かさ、その地域に暮らす人が湾を守り続けてきた歴史が認められ、日本で初めての加盟となりました。



国指定重要文化財、東北地方現存最古の桃山建築と伝わる五大堂



芭蕉と、『奥の細道』で一緒に旅をした弟子の曾良の句碑



波や風に浸食され、独特の形状をした岩肌を見ることができる

人々の願いが息づく「霊場」としての松島

松島に漂う神聖な空気。それは、ここが江戸時代半ば頃までは、霊場、つまり信仰の地として存在していた歴史があるからかもしれません。かつて辺境の地であった松島にたどり着いた人々は、目にした類い稀な景色に「極楽浄土」の面影を重ねたと言います。その中心的な場所が松島海岸に浮かぶ雄島で、その名をはるか京の都まで知らしめたのが、見仏上人という1人の僧侶でした。1104(長治元)年に松島にやってきた見仏上人は、雄島にこもって10余年にわたって法華教を唱え続けると、超人的な能力(法力)を会得。その高德を称えて京都の鳥羽天皇から千本の松を賜り、それが松島の由来とも言われています。また、見仏上人亡き後も修行僧が参集し、その中の一人であった頼賢が22年間雄島にこもって法華経を唱え続け、「見仏の再来」と讃仰されたことで、雄島の名を高めました。こうして松島は、次第に霊場として神聖視されるようになり、戦乱の世が終わる頃には、修行僧だけでなく庶民もが極楽往生を願って、遠路はるばる松島にまで火葬骨を納めに訪れるようになりました。雄島には、今でもいたるところに岩窟があり、当時の修行僧や巡礼者によって彫られた仏像や石塔が安置されています。

さまざまな恵みが集まる宝の海

もう一方で松島は、地域の生活を支え続ける「恵みの海」でもあります。松島湾の周辺には、今でも多くの貝塚が残っていますが、縄文時代の貝塚からはアサリなどの貝殻や魚の骨などが出土しており、古代から魚介や海藻などの恵みがこの地域の生活を支えてきたことがわかります。

寒流と暖流が混ざり合う宮城県沖は、世界三大漁場にも数えられる豊かな海で知られます。中でも、松島湾の南西部に位置する塩釜港は、全国トップクラスのマグロの漁獲量を誇っています。さらに松島湾で盛んなのが、牡蠣を中心とした養殖業です。栄養分が豊富で、干満の差が少ない穏やかな松島湾は養殖に最適な条件が揃っています。牡蠣養殖はその歴史も長く、1600年代に松島湾野々島で内海庄左衛門が天然稚貝を集めて海面に散布し育てたのが始まりと言われています。その後、1800年代後半に広島から講師を招いて本格的な養殖事業が始まると、1924(大正13)年には垂下式採苗法が考案され、世界各国へ種牡蠣を輸出するようになりました。国内の多くの養殖場では、宮城県産の種牡蠣が使われ、宮城県の牡蠣養殖は、広島に次いで生産量国内2位となる産業にまで成長しています。



2011年3月 津波によって浸水した国道45号(写真提供:松島町)



震災遺構として残されている東松島市の旧・野蒜駅



松島湾の中心漁港の磯崎漁港

震災を乗り越え、美しく豊かな松島を取り戻すために。

東日本大震災による松島への影響

2011(平成23)年3月11日、この豊かな自然と美しい景観を襲ったのが、日本観測史上最大となるマグニチュード9.0を記録した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)です。死者・行方不明者は2万人にのぼり、約47万人が避難を余儀なくされました。地震に伴って発生した津波は、漁船、港湾施設、住宅や農地など、あらゆるものを飲み込み、甚大な被害をもたらしました。

一方で、湾の奥に位置する松島町では、3メートル前後の津波浸水高に留まり、比較的被害が少なかった地域とされています。これは、松島湾の沖合に配列されている島々が、天然の防波堤の役割を果たしたためと考えられています。松島湾では、雄島に架かる渡月橋や福浦島に架かる福浦橋、遊覧船などが津波に流される被害はありましたが、島々に大きな変化はなく、美しい景観は保たれました。多くの歴史的建造物も、亀裂、漆喰壁の崩落などの被害はありましたが、津波被害は免れました。また、震災当日に松島町を訪れていた1,200人の観光客は1人のけが人もなく、無事に帰路につくことができました。自然によって壊されたものと、守られたもの。改めて人間が太刀打ちできない大きな力を感じずにはいられません。

甚大な被害を受けた漁港・水産業

沿岸部に押し寄せた大津波は、水産業に大きなダメージを与えました。小規模な漁港が多い宮城県の142港はすべてが壊滅し、牡蠣などの養殖施設も各地で被害を受けました。

しかし地震から約1ヵ月後の4月14日、比較的被害の少なかった塩釜港がいち早く再開すると、気仙沼、志津川、石巻、女川の漁港が順次稼働し、魚市場も徐々に再開していきました。もちろん、漁業が再開できても状況が戻ったわけではなく、海底に沈んだ大量の瓦礫は、撤去をしてもすぐに海流に乗って湾に集まってくるなど、復興は困難を極めました。他にも漁船の確保、設備の復旧、人材不足など多くの問題を抱えながらも、漁業関係者や地元住民の地道な努力と郷土愛によって一歩ずつ復旧・復興計画が進められていきました。8年が経過した2019年1月現在、水産庁からは被災三県の被災した漁港すべてで陸揚げ機能が回復、漁港施設の約9割が復旧し、牡蠣養殖業は再開を希望する養殖施設については2015年12月末に復旧が完了と報告されています。しかし水産加工品については風評被害の影響もあり、宮城県で売上が8割以上回復した事業者は52%に留まっています。2021(令和3)年度の復興事業の完成をめざし、現在も必死の復旧・復興作業は続けられています。



修行の場であったことがうかがえる雄島の岩窟群



古浦漁港付近にある垂下式養殖の牡蠣棚



来年に向け、種牡蠣のついた原盤を一枚ずつ縄に挟み込む作業



松島産牡蠣



観光客が的をめがけて砂団子を投入する様子



アマモの役割などを紹介したパネル展示



動物の型取りをした砂団子



観光客で賑わう瑞巖寺と土産物店



伊達政宗の菩提寺である瑞巖寺は、本堂や庫裡は国宝に指定されている奥州随一の禪寺



観光客に人気の松島の島々を巡る遊覧船

海の生態系を守る「アマモ場」の流失と再生

水産業以外に大きな被害を受けたのが、松島湾に広がるアマモ場です。震災以前には約213万平方メートルも存在していた松島湾のアマモ場は、津波によって約99%が流失してしまい、震災翌年には2万平方メートルまで減少しました。アマモは、海の中に生える海草の一種で、海中の窒素やリンなどを吸収することで、水質や底質を浄化する重要な役割を果たしています。またアマモがたくさん生えている「アマモ場」は、小さな魚の隠れ処や、魚やイカが産卵する場所として、「海のゆりかご」とも呼ばれます。湾である松島は、水の出入りが少なく滞留しやすい環境のため、アマモのように水質浄化する海草がなくなると、水質が改善されにくくなります。

美しい湾を守るために、震災後、いち早くアマモの再生へ向けて市民団体をはじめ、漁業者、行政などが動き始めました。近年でも、松島町では2018(平成30)年より「アマモ再生プロジェクト」として、泥がたまってアマモが自生しづらくなっている松島湾の土壌を砂地に変える取り組みをスタートさせました。その一環として、観光客にも松島湾の環境保全に参加してもらおうと、福浦橋から砂団子を投げ入れてもらうイベントを行っています。さらに11月には、アマモが育ちやすい岩場づくりのために、牡蠣の殻を粉末にしてつくった石に種を付けた

「種まき石」を投げ込む活動も行っています。現在、アマモの回復率は30%程ですが、地道な一つひとつの取り組みが、美しい松島を未来につなげていくことでしょ。

震災をきっかけに、世界とつながる松島

観光地としての松島は、震災被害が少なかったこともあり、いち早く観光客を受け入れることができました。しかし、震災前年に350万人いた観光客は、震災後の2011(平成23)年には220万人にまで落ち込みました。こうした厳しい状況を打破するきっかけとなったのが、「世界で最も美しい湾クラブ」への加入でした。これにより、世界的にその美しさが認められただけでなく、世界中の人たちに松島の元気な姿を知ってもらう機会を得ることができました。さらに松島町役場では、海外の人の目から松島の現状を発信してもらうため、国際交流員として外国人の雇用をスタートさせました。この交流は、震災時にたまたま観光に訪れていた米国人のAさんが母国に帰れなくなり、避難先の瑞巖寺から相談を受けた松島町役場が、帰国できるように取り計らったのがきっかけでした。後日、そのことに恩義を感じたAさんから、住まいのあるアメリカのノースカロライナ州に松島の子どもたちをホームステイさせたいという申し出があり、ノ-

スカロライナ州と松島町との交流が始まったのです。他にも松島町では、外国人に向けたフェイスブック『Visit Matsushima(ビジット松島)』をスタートし、海外に向けて積極的に松島の魅力を発信。震災をきっかけとした新しいつながりによって、震災前は1万人程だった外国人観光客は、現在は5万人にまで増加しています。

長い歴史の中で、松島には多くの人々が訪れ、多くの人に愛されてきました。震災という想像を絶する脅威を経験してもなお、静かに、優しく、訪れる人を受け入れてくれています。海外との新しい絆も生まれ、これからも松島には、さまざまな人の思いが宿っていくことでしょう。

【取材協力・写真提供・資料提供】
○ 松島町産業観光課 観光班

【参考資料】

- 守ろう・育てよう 日本の水産業 ④大震災と水産業 (坂本 一男 監修 / 株式会社 岩崎書店 発行)
- 東日本大震災とこれからの水産業 (白須 敏朗 著 / 株式会社 成山堂書店 発行)
- 新松島ものがたり(小川 澄夫 著 / 株式会社 国書刊行会 発行)
- 日本農業年報58 農業・漁業をどう立て直すか 一大震災・原発事故からの復旧の実態、復興の課題― (梶井 功 編集代表、服部 信司 編集担当 / 一般財団法人 農林統計協会 発行)
- 霊場と松島と(松島町産業観光課 発行)
- 松島湾の牡蠣図鑑(つなぐ湾プロジェクト 発行)



牡蠣棚の資材から食する竹へ 鮮度にこだわった、「たけのこ」

松島町の「たけのこ工房 吉左衛門」がつくる水煮たけのこは、早朝に収穫し3時間以内に茹で、旨みをぎゅっと閉じ込めた逸品です。「鮮度にこだわるのは、柔らかく甘みのある風味豊かな旬のたけのこを、そのまま届けたいと思ったから」と語る代表の丹野隆子さん。東日本大震災の被害を受け、家業の牡蠣養殖を断念しましたが、牡蠣棚用に所有していた竹林を整備した際に良質なたけのこができたことから、2016(平成28)年に水煮たけのこ加工を始めました。2017(平成29)年には松島の特産品として「松島ブランド」に認定。さらに、米穀店とコラボした「たけのこおこわ」の販売や、松島の小学校給食で使われるなど、地元の人にも愛されています。

※「たけのこおこわ」は、「浅野商店 米穀部」で土日限定販売中



左：朝採りたけのこ 180g / 700円(税込)
右：刺身たけのこ 100g / 700円(税込)

商談会にも積極的に参加

ここでついています!

たけのこ工房 吉左衛門
宮城県宮城郡松島町竹谷字猪里沢29

TEL 090-9033-6094

営業日 4月20日～5月31日は、たけのこ収穫期間で毎日営業(都合により、臨時休業あり) 上記の期間以外は、不定期営業となりますので、お電話でのご連絡をお願いいたします。

営業時間 9:00～17:00

Web <https://www.facebook.com/kitizaemontakenoko/>

たけのこの山(竹林)と製作所を同じ敷地内に構える「たけのこ工房 吉左衛門」は、松島の観光地から少し離れた里山に佇んでいます。「宮城県松島町産 たけのこ」は、通常松島の産地直売所や宿泊施設「パレス松洲」で販売していますが、製作所でも直接購入できます。

海外導入レポート

豪州の集落で100基以上のフジクリーン浄化槽が採用！

More than 100 FujiClean systems adopted in Australian township!

フジクリーンでは、長年にわたり培ってきた浄化槽の技術を応用し、アメリカ、オーストラリア、ドイツの3つの海外拠点を中心に、海外事業を展開しています。今回は、海外拠点の一つであるオーストラリアで実施された大規模な導入事例をご紹介します。

FujiClean has applied the on-site wastewater treatment system, or "JOKASO" in Japanese, technology we have accumulated over the years to develop overseas business at three bases in the United States, Australia, and Germany. This edition introduces a large-scale project that was carried out in Australia, one of our overseas bases.

下水道設置計画から、住民負担の少ない浄化槽の設置へ

オーストラリアビクトリア州郊外のブラックウッド地区では、2019年9月までに100基以上のフジクリーン製の浄化槽が設置されました。この地域では、一般家庭から排出される生活排水の処理槽として、主にセプティックタンク*1が設置されていました。セプティックタンクは、その処理性能の低さなどにより臭いや環境面での不安が問題視されていたことから、自治体*2がこの地域のセプティックタンク性能状況を調査。全体の約25%が性能不良*3という結果となったため、環境整備の一環として、隣町の下水処理場へ全住戸を接続するという計画が立ち上がりました。しかし実施するには、点在する住宅の配管敷設や、森林を伐採し数十キロにわたる下水管敷設など、コストと時間が膨大にかかることから、住民から強固な反対を受けました。そこで、代替案として処理性能の優れた分散型汚水処理である浄化槽の設置へ計画を転換したところ、住民の理解が得られ、豪州でのいわゆる市町村整備事業が決定しました。

低コスト、短工期の浄化槽のメリットを世界へ

オーストラリアでは、浄化槽からの処理水を土に浸透させ処理しますが、今回の事業では既存のセプティックタンクからの転換で設置面積も限られることから、浸透場所に竹を使用するシステムを取り入れ、浸透面積を抑える工夫もとられました。

今回の浄化槽転換プロジェクトの全体の設置費用は、当初の下水道敷設費用の5%*3以下で実現され、施主の浄化槽設置費用負担額はたったのA\$800*3に抑えられました。このように、低コスト・短工期など、浄化槽のメリットが十二分に活かされたことがプロジェクトの成功につながりました。

*1 固液分離のみの機能を有した簡易な処理システム、腐敗槽
*2 オーストラリア ビクトリア州 Moorabool Shire Council
*3 出典:Blackwood Localised Septic Program

From centralized sewage treatment plant installation plans to installation of on-site wastewater treatment systems with little burden on residents

In the Blackwood Township in the suburbs of Victoria, Australia, more than 100 FujiClean systems were installed by September 2019. In this area, mostly septic tanks*1 were used to treat the domestic wastewater discharged from general homes. Septic tanks have often been seen as a problem as they have a low treating performance, resulting in odors and environmental issues. The local government*2 investigated the situation of septic tank performance in this area and found that approx. 25% of all septic tanks had poor performance*3. As part of their efforts to improve the environment, a plan was started to connect all homes to a sewage treatment plant in a neighboring city. However, the plan was met with strong opposition from the residents because of the enormous cost and time required for laying pipes for several tens of kilometers and clearing forests to connect the scattered houses. The plan was shifted to the installation of on-site wastewater treatment systems, which are a decentralized sewage treatment system with excellent performance. The residents agreed to the new proposal, and the so-called municipal project of on-site wastewater treatment plant in Australia was set.

Bringing the merits of a low-cost, short installation period on-site wastewater treatment system to the world

In Australia, the treated water from the on-site wastewater treatment system is permeated into the soil and released. In this project, however, the installation area is limited due to conversion from the existing septic tank, so a system using bamboo is adopted at the discharge location. This system was devised to reduce the discharge area.

The total installation cost for this septic tank conversion project was realized at 5%*3 or less of the initial sewer laying costs, and the owner's on-site wastewater treatment system installation cost burden was reduced to only AUD 800*3. In this way, the project's success was achieved by fully utilizing the advantages of the on-site wastewater treatment system, such as low cost and short installation period.

*1. Simple treatment system with only functions to separate fluid from solids.
*2. Australia, Moorabool Shire Council, Victoria
*3. Source: Blackwood Localised Septic Program



担当者VOICE

販売会社の担当者からは、「フジクリーン浄化槽は軽量で扱いやすいため、地形が険しいブラックウッド地区に非常に適している」という声をいただいています。また、フジクリーン浄化槽を使用する施主の皆様もとても喜んでくれていて、親戚や友人にまで推薦してくれていると聞きます。今回のプロジェクトは、多くの方に満足していただくことができ、私たちにとっても、喜ばしい物件となりました。今回のような素晴らしいプロジェクトが今後も増えて、フジクリーンブランドを一層広めることができるといいと思います。

Our distributor in the area says the FujiClean systems have been perfect for the area as it was a very rough rural area with our lightweight tanks that fit perfect for the Blackwood Project. We also heard that all customers with the FujiClean systems were so happy that they would recommend the FujiClean tanks to their family and friends. As many people who have involved with this project are very happy with our systems the Blackwood Project has been an excellent Project for FujiClean Australia. We hope to keep expanding our brand across Australia by assisting such fantastic projects in near future.



フジクリーンオーストラリア
ビクトリア州 営業担当
Shane Ashton

新製品

人工透析廃水専用、コンパクトサイズのpH中和装置が新発売!



人工透析廃水専用
pH調整ユニット

2019年
9月発売

FJP-B型 [屋内専用品]

酸・アルカリ 中和型

放流水質

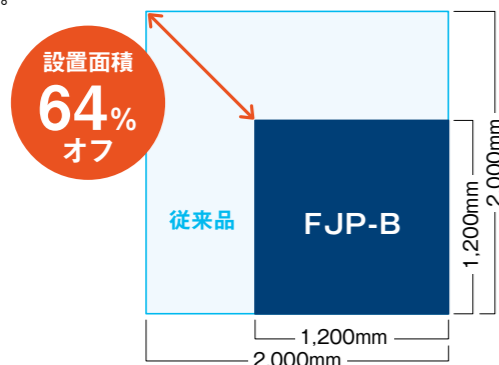
pH5.0を超え9.0未満

スペースの限られたテナントビルの透析医院の要望に応え、圧倒的なコンパクト化を実現しました!

近年、下水道排除基準値を超える透析排水を未処理のまま排水することによって、下水道管の腐食被害が問題化し、行政や関係機関が対策に乗り出しています。こうした状況を受け、フジクリーンではコンパクトサイズの人工透析廃水専用中和装置としてFJP-B型を開発。2019年9月より販売を開始しました。従来機と比較し、設置面積を64%削減し、テナントビルなどの設置スペース確保が難しいケースにも対応しやすくなりました。

1 設置面積を64%削減した圧倒的なコンパクト性!

大幅なコンパクト化を実現し、設置スペースはおよそ1,200mm×1,200mmと、従来機と比べて64%も削減。設置スペースの限られたテナントビルなどにも対応可能になりました。



2 安心・安全に使用できる新機能が充実!

医療機関で使用するからこそ、もしもの緊急時を想定した安心・安全に配慮した新機能を充実させました。

- 業界初! 万が一の中和薬品の液漏れにも安心なガード板と防液堤を設置
- 故障や緊急対応などに安心、業界最大のメンテナンス体制
- 中和薬品の注入は、pH比例制御で自動コントロール
- 効率的な運転により、低ランニングコストを実現

EVENT

中国・江蘇省南京市で開催された『2019年国際生態環境新技術大会』に出展しました!

2019年10月11日・12日の2日間、中国・江蘇省において「2019年国際生態環境新技術大会」が開催され、フジクリーンも出展いたしました。この大会は、環境関連技術の国際的な展示商談会であり、展示商談会のほか世界各国の専門家や産業界の代表、政府部門の担当者などが参加し、ハイレベルフォーラム、テーマ別のセミナー及び技術・製品の発表会等が開催されました。

フジクリーンのブースでは、汚水処理施設の普及に寄与できる工場製作型集合処理施設をはじめ、難民キャンプなどでの利用が期待できる地上設置型浄化槽、処理排水の再利用化などを紹介しました。



2019年度の浄化槽製造工場見学会がフジクリーンの3工場でも開催されました。

一般社団法人浄化槽システム協会では、市町村で浄化槽を担当されている方々に向けて、全国で浄化槽製造工場見学会を開催しています。フジクリーンの那須工場・三好工場・飯塚工場の3工場においても開催され、今年度も多くの市町村の浄化槽担当の方にご参加いただきました。見学会では、浄化槽の構造や機能をはじめ、施工や維持管理についての説明や製造現場の生産ラインの案内を実施しました。



国内最大級の総合防災イベントで浄化槽をアピール

2019年10月19日・20日の2日間、国内最大級の総合防災イベントである「ぼうさいこくたい(防災推進国民大会)」(主催:内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議)が愛知県名古屋市で開催されました。フジクリーンは、一般社団法人浄化槽システム協会の出展に協力し、浄化槽が災害に強い汚水処理システムであることをPRするとともに、浄化槽ミニチュアモデルとマンホールトイレを展示しました。



先の自然災害により、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

10月の台風では弊社郡山営業所事務所が阿武隈川の氾濫により浸水しました。浸水直後は通常営業ができず、お客さまには多大なご迷惑とご心配をおかけし、誠に申し訳ございません。おかげさまで現在は、通常通り営業いたしております。いろいろご協力賜りました関係各所には、心より感謝申し上げます。今後とも、一層業務に精励し、お客さまのお役に立てるよう努めてまいります。

もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

(名古屋市瑞穂区)
「あいの海」
グリーンマップ

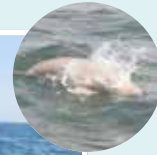


代表/大矢 晃さん(右)
大矢 美紀さん(左)

南知多の“海を教材”に、 子どもたちの環境意識を啓発していく。



グリーンマップ
(2005年8月)



スナメリが
追ってきます



チリメンモンスターのワークショップ

2019年で13回目を迎えた「ヨットで佐久島へ!」企画

「あいの海」グリーンマップは、2004年に設立した任意団体で、現在は大矢さん夫妻を中心に7名で活動しています。設立のきっかけは、2005年に愛知県で開催された日本国際博覧会「愛・地球博」。自然の叡智をテーマにした万博において、「グリーンマップ」の展示イベントが行われることになり、開催の1年前に立ち上がりました。グリーンマップとは、ある地域の環境を調査し、地図をつくる国際的な活動です。調査エリアは、代表の大矢さんがよく訪れていた伊勢湾・三河湾に定め、当時の漁業権に関与しないスナメリやアカウミガメなどの生物の生態や環境を伝えるグリーンマップづくりに取り組みました。完成したマップは、開催期間中2,200万人以上が来場した「愛・地球博」で無事に展示され、好評を博しました。一方で、代表の大矢さんは、マップづくりを行う中で「環境の持つ魅力や可能性を、むしろそこで暮らす地元の人々が見過ぎており、忘れてしまっているのではないだろうか」という新しい気づきも得られたと言います。

これをヒントに、「あいの海」グリーンマップは、海の近くに住む子どもたちを対象とした新たな活動をスタートさせます。海に棲む生物や、その生物が生きていくための環境の大切さを伝えようと、南知多町の海岸で調査を行いながら、クサフグの集団産卵やウミホタルの観察会、チリメンジャコの中に混じる小さな生物(チリメンモンスター)を見つけるワークショップなど多彩な活動を行っています。対象エリアを南知多町にしたのは、海の生物多様性が残されており、関心の高い題材が期待できると考えたからです。こうした活動は、地元の学校や行政、市民活動団体等と協力して実施しており、大矢さんは「活動がスムーズに行えるのも、地元の人たちに支えられてこそ」と、「地域との絆」に感謝しています。南知多町の海岸も温暖化の影響によって毎年見られる生物が変わるなど、環境の変化は否めません。だからこそ、子どもたちや地元の人たちにこの状況をリアルに伝えていきたいと、より一層意欲を高めています。



美しい水を守る

フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	茨城営業所 (029)839-2271	岐阜営業所 (058)274-1011	佐賀営業所 (0952)31-9151
東北支店 (022)212-3339	宇都宮営業所 (028)625-4650	静岡営業所 (054)286-4145	熊本営業所 (096)388-3571
東京支店 (03)3288-4511	群馬営業所 (027)327-5611	四日市営業所 (059)350-0788	大分営業所 (097)558-5135
名古屋支店 (052)733-0250	埼玉営業所 (048)620-1424	和歌山営業所 (073)422-3634	宮崎営業所 (0985)32-3064
大阪支店 (06)6396-6166	千葉営業所 (043)206-5171	広島営業所 (082)843-3315	鹿児島営業所 (099)257-3501
福岡支店 (092)441-0222	新潟営業所 (025)271-8668	高松営業所 (087)869-8680	沖縄営業所 (098)862-9533
盛岡営業所 (019)604-2527	山梨営業所 (055)275-9300	松山営業所 (089)967-6123	
郡山営業所 (024)944-7780	松本営業所 (0263)27-2080	高知営業所 (088)803-1520	



発行 2020年1月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室